

## 第16期 第2回常任理事会議事録

日時 昭和45年9月7日(月) 15.00~19.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 大田, 関原, 小平, 岸保, 神山, 駒林, 伊藤,  
藤原, 北川, 大井, 関口, 各常任理事

列席者 窪田長期計画委員長, 鈴木庶務委員

## 報告抜粋(庶務)

1. 7月22日(社)日本放射性同位元素協会会長から第8回理工学における同位元素研究発表会の共同主催に協賛方の依頼がきた。回答期限9月10日

〔結論〕共催を承諾する。運営委員に気象研究所矢野直会員を推薦する。分担金2,000円負担を了承する。

2. 8月10日構造物の耐風性に関する第3回国際会議組織委員会委員長から国際会議の共催方と委員として塩谷正雄(日大), 相馬清二(気研), 光田寧(京大)の3会員に参加してほしいと依頼がきた。

〔結果〕8月11日承諾の回答をした。

(学会賞)学会奨励金受領者選定経過報告。(本日の議題)

(長期計画)秋季大会のシンポジウムについて報告(正野記念論文集)現在約50名から執筆希望があった。(学術会議)9月11日「公害シンポジウム」, 9月26日「70年代の科学をめざしてのシンポジウム」が開催される。

大学院の学生が実験中ケガをしたような場合の補償問題について検討中。

次期会員の選挙について次回の常任理事会で検討する。

## (議演企画)

(1) 秋季大会アブストラクトと予稿集の編集を終えた。第1日昼休み座長昼食会, 第3日夕「大会回顧座長座談会」を行ない, これに地方研究における問題点も加味する。座長を依頼した。

(2) 第17回風に関するシンポジウム 12月10日(木) 9:30 気象庁講堂

(3) Prof. Scherhag 8月31日21時

旅行中急死(肝臓炎)のため理事長名で弔電(関原理事)放射シンポジウムの日程等については外国出張中の山本理事長が当事者と打合せ中である。

(岸保理事)9月14日からIASP総会が開かれる。14日13時から17時まで登録受付をするが登録料7,200円を

要する。

## 議題

## 1. 秋期大会について

- (1) 大会委員長 青木滋一氏に依頼する。
- (2) 会場費について 今回は会場費は徴収しない。
- (3) 予稿集の値上げについて

最近の印刷費の値上りのため, 今回より1冊450円とする。

## 2. 学会奨励金受領候補者について

「山越気流の研究」長野美文(大阪航空測候所)

「半球規模での温度構造の季節変化に関する熱力学的研究」久保田 効(新潟地方気象台)の2件を認める。(選定理由は別紙)

本件は全理事に書面審査を依頼する。

## 3. 気象学長期計画について

1965年度長期計画の残された問題について再検討され, 新計画のあり方について活発な討論がなされた。今後も引き続き検討する。

## 4. 別刷代金改訂について

気象集誌1頁3円を4円とし, 天気, 気研ノートは今までどおり。

## 5. 東レ科学振興会の科学技術賞ならびに研究助成金候補者について

研究助成金候補として矢野直会員(気研)を推薦する。科学技術賞については天気に公告して希望者を募る。

## 承認事項

通常会員浜田勝博外23名の入会を承認する。

昭和45年度日本気象学会奨励金の受領者は次のとおり決定した。

半球規模での温度構造の季節変化に関する熱力学的研究 久保田 効(新潟地方気象台)

山越気流の研究 長野美文(大阪航空測候所)

なお, 選定理由は下記のとおりである。

## 日本気象学会奨励金受領者

## 選定理由書

奨励金受領者 長野美文(昭和22年生)

研究題目 山越気流の研究

**選 定 理 由** 長野美文会員は昭和44年気象大学校を卒業し、現在大阪航空測候所観測課に勤めている。同会員は気象大学校在学時より「山越気流」の問題にとりくみ、方程式の力学的解析と図式解法とによって、山越気流の定常的な二層運動流としての性質を明らかにした。

大阪航空測候所勤務後も現業勤務のかたわら、ひきつづきこの問題を追求し、同測候所で実際上の問題となっている「六甲おろし」について、あらゆる入手可能な観測資料を用いて、この二層流モデルが適用できるか否かを検証しようとし、また数値実験を行なって観測値との比較を実施し、「六甲おろし」の実体を解明し、ひろくは山越気流一般の研究に寄与しようとしている。

きわめて多忙な測候所勤務のなかで、気象大学校在学時以来の研究意欲を失うことなく、発展性のある適切な研究計画をたて、かつこれを実施しようとする同会員の研究活動は、特に推進・援助に価するものと判断される。よって本学会は同会員の研究活動を援助するため、ここに奨励金をおくるものである。

日本気象学会奨励金受領者

## 選 定 理 由 書

奨励金受領者 久保田効(昭和11年生)

研究題目 半球規模での温度構造の季節変化に関する熱力学的研究

**選 定 理 由** 久保田効会員は昭和34年、九州大学卒業後仙台管区気象台、気象庁予報部をへて現在新潟地方気象台予報課予報官の職にある。同会員は大気下層の温度の季節変化について研究を重ね、日射、放射、水の状態変化にともなう潜熱、大気海洋中での顕熱輸送等を含む熱収支の問題を熱力学的にとりあつかい、これらの要素が大気下層の温度の季節変化に及ぼす効果を量的に推定する等の成果を収めた。同会員はさらにこの研究を発展させ、北半球の規模における凝結熱の発散と今までで不明確な点の多かった海洋でのエネルギー流束を解明しようと計画している。

研究環境にめぐまれない地方気象台の現業勤務のかたわら、気象学の発展に寄与しようとする研究計画をたて、かつこれを遂行しようとする同会員の研究活動を援助するため、本学会はここに奨励金をおくるものである。

## IUGG 総会のお知らせ

1. IAMAP (IUGG の気象分科会) の Secretary, Godson 氏より IUGG 総会に関し IAMAP に関連するシンポジウムの知らせがきましたのでお知らせします。

シンポジウムの発表論文はコンピーナーのきめる invited paper と一般応募の論文よりなります。一般応募の論文は各国の気象分科会を通して Godson 氏に提出するようになっています。したがって一般応募者は下記要領で論文のアブストラクトを送付して下さい。

1. 送付先：東京都文京区弥生町二 東京大学理学部地球物理学教室 岸保勤三郎
2. 締切り期日：昭和46年1月15日
3. アブストラクト形式：
  - a) 210×297mmの用紙。
  - b) 左側は3cmあける。
  - c) 1ページ目は上部1/3をあげ、著者名(例：Yoshida, S.)、所属、国名、論文タイトルを縦にならべる。
  - d) タイプは1.5行づつあける。また写真印刷のため、タイプは黒リボンを用いること。
  - e) アブストラクトは1ページ分の長さ。したがってタイトルがあるために2ページにわたるがその際はPage 2を上段に入れること。
  - f) 用いる言葉は英語、フランス語に限る。